

研修だより



4月19日火曜日に、4年3組で授業研を行いました。今回の授業研の主なテーマは、

- ① 新しく研究同人になっていただいた先生方に、小郡小学校の昨年までの研究の流れとこれからの方向を見ていただく。
- ② 昨年度末に今までの研修の成果としてまとめられた「指導案の形式」「指導過程 わかる・かわる・できる」の具体像の提示。

の2点でした。如何でしたでしょうか？どんな感想をおもちになられたでしょうか？

授業者としては、「これぞ本校の目指す授業！これが国語の授業！」と意気揚々でしたが、教材研究を進め、具体的に指導案を書けば書くほど、自信を失くし「何であんな大口（子どもたちの実態もわからず、わずか八日目の授業研をしますと宣言したこと）をたたいてしまったのだろう。」と後悔ばかりの日々を過ごして当日を迎える体たらくでした。

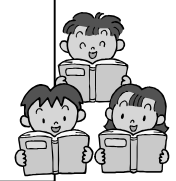
しかし、授業者の私は『子どもたちが、一人学び→話し合い活動を通した学び合い』という授業の過程が身についており、話し合いを深めようとする意識が育っている。』ということを実感できたことが喜びでした。前学年、3年生でご指導された先生方の努力に感謝するとともに、この育ちをもっと伸ばしていくことの責任を感じました。

ところで、先日（4月28日）に「白いぼうし」の全学習を終えました。その最後の感想（自由記述です。）の中から、一人学びや話し合い活動について書いてあった感想をご紹介します。

I・Hさん
わたしはさいしよの感想は書けなかったけど、だんだんこの「白いぼうし」の話が分かってきてよかったです。かなしい話、たのしい話、どんな話かなとさいしよは分からなかったけど、勉強しておもしろい、ふしぎなことが多かったお話だとわかりました。松井さんのやさしさとおもしろさもつたわってきました。みんなと先生で勉強してよかったです。



Y・Oさん
白いぼうしは、わたしの思った話とちがう話でした。題名だけでかなしいとおもうのはまちがいでした。（題名読み学習のことです。）でも、ちよつとだけにいました。よかったです。
勉強で自信をもって手をあげたのは、はじめてです。教科書にいっぱいかきこみをしたので、松井さんの気持ちわかったような気がします。教科書の16ページの「よかったですよ。」「よかったですね。」はだれがいったのか、まだよくわかりません。



☆☆ 研究協議から ☆☆

授業後の話し合いの中で、今後の方向性として次のような点があげられたと思います。

- 「聴き合い」から「学び合い」へと質が向上していく『話し合い活動』をどう育てるか。
「つながる話し合い」をするためには、聴くことの技術や心情を育てることも大切である。つまり、教室が「学習集団」となることであり、学習集団作りというアプローチの仕方もあるのではないか。今回のように研修の成果が繋がっていることから、つなげるためにも学習集団づくりという観点も必要ではないでしょうか。
- わかる・かわる・できるという「学びの過程」をどう生かしていくか。
そのためには、この一時間で習得する学習内容を明らかにし、どのような学習活動で、その学習内容を学ぶことができるのかを明らかにすることである。そのために必要なことは、教材研究であり、子どもたちが学びの喜びを体感できる授業を仕組むためにも、私たちが自信をもって授業に臨むためにも大事にしていきたいと思いました。

